# 140年のあゆみ

## 創立期（函館商業学校）

明治19年1月北海道三県が廃止され、札幌に北海道庁が置かれた。その結果、札幌・函館の両師範学校を統合して、札幌に北海道師範学校を創立することになった。

この函館師範学校の校舎を転用して、当時五大港の一つとして繁栄の道をたどっていた函館に商業学校が設立された。現存の公立学校では本校が最古の存在である。

明治19. 9.17　函館商業学校設立の告示（庚第14号）
「商業学校ヲ管下渡島ノ国函館区元町ニ設置シ函館商業学校ト称ス」
20. 1.11　開校式挙行（定員100名、修業年限３カ年）
4.－　寄宿舎開設
22. 2. 4　寄宿舎より出火、校舎焼失し、機器、標本、図書館概ね烏有に帰す
2. 6　長官出張所構内表門長屋を仮校舎とす
12.30　新校舎落成式挙行
23. 3. 1　校章を制定（Trading Schoolのイニシャルを採用）
5.21　規則改正。予科（修業年限１年）を置き、本科に入る必要な学科を教える
7.31　第１回卒業証書授与式挙行（卒業生６名）
函商同志会（同窓会の前身）発足
25. 3.30　函館公園内第１博物館・第２博物館を本校附属商品陳列場と改称。一般の縦覧に供す

## 商業専修科時代（函館尋常中学校商業専修科）

告示第32号（明治28.3.14「札幌区ニ札幌尋常中学校、函館区ニ函館尋常中学校ヲ設置ス、明治28年３月31日限リ函館商業学校ヲ廃止ス」。これによって本校生は、中学校の商業専修科（中学校２年終了後、中学コースと商業専修科コースを選択する）になる。修業年限３年。しかし、合併後、２，３年にして先生・生徒・同窓生一丸となった独立運動が起こり、復活の歴史的な日を迎える。この日が本校の開校記念日となる。

明治28. 4. 1　函館校舎及び商品陳列場等一切の物件を引き継いだ函館尋常中学校（現函館中部高校）が開設され、商業学校生徒は同行商業専修科に収容される
29. 3.31　文部省告示第２号によって、商業専修科を文官人用命による官公立尋常中学校同等以上と認定される
32. 6. 9　函館商業学校（甲種）を函館元町に設置認可

## 元町時代（北海道庁立函館商業学校）

街路樹の緑蔭をつたって八幡坂を登った函館山の麓に元町時代の校舎が建っていた。グランドに立って見下ろせば港が一望のもとにあり、恵まれた学園生活をしのぶ同窓生も多い。明治の後半は校舎の整備や教育課程なども安定し、大正期はさらにクラブ活動が学校教育の一環として根を下ろしてきた揺藍期でもあった。

明治32. 7. 1　開校式挙行（開校記念日制定）
函館中学校商業専修科生徒55名並びに同中学校より志願者72名の転学を認め、授業開始
校章をマーキュリーに英字ＨＣＳを配する現行のものに改める
34. 6.15　北海道庁立函館商業学校となる
35. 9.15　講堂及び職員室増築